

令和7年度 学校図書館活用計画・評価シート

白地部分：計画策定時記入（年度当初）

水色部分：評価時記入（年度末）

足立区立 第十二 中学校 校長 千葉 千登勢

1 学校教育目標

人権尊重の精神を基調とし、広い視野と深い知識、思いやりの心と規範意識をもった心身ともに健康な中学生
『生徒行動目標』 ○自ら学ぶ ○思いやる ○鍛える

2 現状の学校図書館の課題

- ①授業で活用しようとしても、時間確保の観点から、情報学習基盤のみを用いてしまう場面が多くなってしまふ。
- ②学校図書館を全く利用しない生徒が一定数いる。

3 今年度の学校図書館の重点目標

- ①学校図書館を「読書・学習・情報センター」として利活用するよう推進を図る。
- ②生徒の読書活動を支援し、様々な情報を効率的に駆使できるよう指導する。

4 今年度の重点的な取組

- ①調べ学習の際に図書利用を起点として、その後にデジタル学習基盤を利用するよう生徒に促す。
- ②今年度から本校は朝読書から朝学習に学校全体の取組が変わったが、読書時間が大きく減少しないように積極的な学校図書館の利活用を、図書委員会を通じて推進する。

5 教科等における年間指導計画（対象学年は○数字で記載）

教科	内容（学校図書館の図書や資料を活用して取り組む単元等）
国語	①情報を整理して書こう ②多様な方法で情報を集めよう ③説得力のある構成を考えよう
社会	①身近な地域の調査 ②地域の在り方 ③私たちと国際社会
英語	②What kind of job are you interested in? ②What are World Heritage sites and their problems?
理科	①生物の観察と分類のしかた ③宇宙の広がり
保健体育	①②③健康な生活と疾病の予防

実践の評価

各教科の年間計画に基づき、該当単元での図書館資料の活用を促した。国語の情報の集め方や、社会の地域調査など、一部の調べ学習において図書の活用が見られた。しかし、限られた授業時間の中では ICT 端末（デジタル学習基盤）での検索が主流になりやすく、図書資料を起点とした探究活動の定着には、時間確保の面で依然として課題が残る。

6 図書館運営計画

(1) 日常的な取り組み

読書時間の確保（朝読書の設定時間が朝学習になったため、意識的に図書館を利活用させる）

(2) 主な行事等の取り組み

①しおりキャンペーン（9～10月） ②さくらキャンペーン（2～3月）

(3) 図書委員会などの取り組み

①Google Classroom を活用して、学校図書館の情報発信を行う。
②ポスター・ポップ作成、しおり作成。③おすすめ本を昼放送で紹介。

(4) 環境整備の取り組み

①返却ポストを常時配置し、返却遅延を防止する。
②蔵書点検を毎年実施し、不明紛失本を明確にして処理する。

(5) 司書・外部との連携

①年度初めに学校図書館オリエンテーションを実施する。
②調べ学習をはじめ、授業に必要な資料について情報交換する。
③必要に応じて公共図書館からの団体貸出を利用する。

実践の評価

朝学習への変更に伴い、図書委員会を中心として Google Classroom での情報発信や昼放送、しおり・さくらキャンペーン等の啓発活動を計画通り実施した。返却ポストの常時配置など環境整備による利便性の向上は見られたものの、日常的な来館者数や貸出冊数の大幅な増加には至らなかった。朝の読書時間減少をカバーするための継続的なアプローチが次年度への課題である。

7	学校図書館利活用に関する成果目標	達成基準	達成状況
①	図書館の基本的な利用の仕方、調べ方を身に着け、読書をとおして豊かな心を育てる。	学校図書館オリエンテーション受講率100%	◎ (99%以上)
②	年間の学習指導内容に合わせ、図書館を活用した学習を展開する。	授業で学校図書館を活用した回数 10回以上	○ (10回以上)
③	探究的な学習を ICT と本、新聞など、複数の情報を利用して展開させる。	図書を活用した「調べる学習コンクール」への参加 30作品以上	△ (2作品)

8 学校図書館全体に関する自己評価

今年度は「読書・学習・情報センター」としての機能維持を目指し、朝学習への移行という環境変化の中で、図書委員会や司書と連携した啓発活動（Classroom による発信や各種キャンペーン等）に注力した。教科の調べ学習において、図書資料を起点としてデジタル学習基盤へ繋げる試みも一部で実施できた。しかし、生徒個々の利用頻度の二極化や、授業における時間的制約から ICT 端末の利用に偏る傾向など、現状の課題を完全に払拭するには至らなかった。次年度は各教科との事前連携をさらに深め、生徒が自然に「本と ICT」の双方を主体的かつ効果的に駆使できるような環境づくりに継続して取り組んでいきたい。